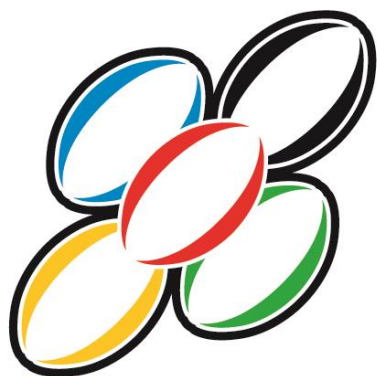




**International
Rugby
Exchange**
Japan - Thailand

日タイキッズラグビー交流2014 報告書

2014年5月
日タイキッズラグビー交流実行委員会



ラグビーをきっかけとして、国際的視野で多様性を認めある能力を獲得する機会

- 1) 日本のこと、タイのことを知る(異文化理解)
- 2) たくさんの友だちをつくる(交友関係の構築)
- 3) 思いを伝え、理解するための道具を身につける(語学習得)



2014年4月4日(金)から6日(日)にかけて、タイ国ラグビーチームであるのVajiravudh Collegeの子どもたち、コーチ、父兄ら総勢34名が千葉県を訪問しました。

「日タイキッズラグビー交流2014」と称されたこの企画は、「日タイキッズラグビー交流実行委員会」(代表: 向山昌利氏 元ラグビー日本代表)が主催し実施いたしました。2009年に始まった本企画は、ラグビーを契機とした日タイの友好親善や異文化理解の促進を目的としています。この度も、本目的に共感してくださった多くの方々(組織)からの多大な支援により、本交流を実現することができました。

日本とタイの子どもたちは、まず4月4日(金)に、千葉県我孫子市にある手賀の丘少年自然の家で合同宿泊をしました。ここでは、日本のカレーとタイのカレーを一緒に作り、食べ比べを行いました。日本の子どもたちは、「口が焼けるように痛いけど美味しい〜」「舌が痛くて味がわからない〜」と初めて食べるタイカレーの辛さに驚いていました。二日目となる4月5日(土)には、NECグリーンロケッツ(ラグビーチーム)本拠地であるNEC我孫子事業場にてトップレベルの選手たちとラグビー交流を行いました。日本とタイの子どもたちは、憧れのラグビー選手のプレーに感嘆の声をあげていました。その後、日本とタイの子どもたちを混合したチームを編成し、タッチフット大会を実施しました。一緒のチームなった日本とタイの子どもたちは、身振り手振りでコミュニケーションをとりながら勝利を目指し懸命にプレーしました。三日目となる4月6日(日)は、印西グラウンドにて日本4チームとタイ1チームで対抗戦を行いました。日本とタイの子どもたちは楕円のボールを追いかけてトライをめざし、そして必死にタックルしました。全力を尽くした後の昼食会では、言葉の異なりを越えお互いに肩を組み健闘を称えあいました。



ラグビー交流概要

日程 2014年4月5日(土)～6日(日)

場所 NEC我孫子事業場
印西ラグビースクール練習場

参加チーム [タイ] Vajiravudh College
34名(小学生18名とコーチ、引率者16名)
[日本] あびこラグビースクール、 印西ラグビースクール
柏ラグビースクール、松戸少年ラグビースクール



スケジュール(2泊3日)

- 4月4日(金) 千葉県我孫子市手賀の丘少年自然の家
カレー作り&食べ比べ
懇親会

- 4月5日(土) ラグビー交流 (NEC我孫子事業場)
NECグリーンロケッツ選手との交流
混合チームによるタッチフット大会
ホームステイ

- 4月6日(日) ラグビー交流(印西グラウンド)
チーム対抗戦
昼食会
交流会終了



《後援》

- ・ 観光庁
- ・ タイ国大使館
- ・ 日本タイ協会
- ・ 日本ラグビーフットボール協会
- ・ タイラグビー協会
- ・ 我孫子市
- ・ 印西市

《協力》

- ・ NEC グリーンロケッツ



《特別協賛》

- ・ 東洋証券株式会社

《協賛》

- ・ タイ大林
- ・ 株式会社ファイナンシャルブレインシステムズ
- ・ ネットビジョン
- ・ 株式会社清水企画
- ・ 東洋機器製造株式会社
- ・ トリコロール
- ・ 印西ライオンズクラブ
- ・ NVS
- ・ 松葉町5-1 自主防災組織
- ・ 柏市ラグビーフットボール協会
- ・ あびこラグビースクール
- ・ 印西ラグビースクール
- ・ 柏ラグビースクール
- ・ 松戸少年ラグビースクール

(順不同・敬称略)

最後になりましたが、今回のイベントを開催するにあたり支援してくださいました皆様、誠にありがとうございました。

本企画継続化へ向けて、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

日タイキッズラグビー交流実行委員会 代表 向山昌利



私たち「日タイキッズラグビー交流実行委員会」の思い

- 1) 政治や経済システムとそのイデオロギーから距離を置くスポーツを、言葉だけでなく、歴史、宗教、人種、貧富といった人々の立場の違いを超える仕掛けとして活用したい
- 2) 人々の間に緩やかな繋がりを生み出すスポーツを、草の根国際交流の分野で用いることで異文化理解を促進したい
- 3) スポーツによる新しい社会的な商品やサービスの開発、あるいは、それを提供する新しい仕組みの導入を通じてスポーツの社会的な価値を発信したい

目的	ラグビー交流を通じた異文化理解
長期目標	参加した子どもたち自らによる本交流の企画運営の実現
中期目標	2019年ラグビーワールドカップ開催に合わせて、合同同窓会を実施する
実施計画	<日本受け入れ> 毎年実施 <タイ渡航> 2012年、2014年、・・・2年間隔で実施
費用負担に関する基本方針	<日本受け入れ> 参加者の自己負担 受け入れの際に必要な諸経費は支援組織(者)からの支援金でまかなう <タイ渡航> 参加者の渡航費は自己負担 安全管理上不可欠な実行委員ならびにスタッフ(ラグビースクールコーチ含む)の参加費は支援組織(者)からの支援金でまかなう

日タイキッズラグビー交流実行委員会について

・設立目的

日タイキッズラグビー交流実行委員会は、我が国とタイの子どもたちに対して、ラグビーを活用した交流を通じ、健全な心身の創出、活力に満ちた社会の創造、スポーツが持つ社会的価値の発信を実現し、幸せな生活の獲得に寄与する。

・所在地 〒610-0362 京都府京田辺市東鍵田18-9 TEL:0774-85-0687

・組織

役職名	氏名	所属
代表・会計	向山昌利	スポーツデザイン
幹事	繁田富久夫	千葉県ラグビーフットボール協会スクール委員会委員
委員	福岡英寿	松葉町5-1自主防災組織本部長
委員	安武紀博	柏ラグビースクール
委員	中澤俊介	印西市市議会議員
委員	金田真男	あびこラグビースクール、株式会社 大林組
委員	下前原隆	Delivery Thai Co., Ltd. 代表



向山 昌利
MASATOSHI MUKOYAMA

プロフィール

1975年熊本県生まれ。熊本高校でラグビー部へ入部し、2年、3年次には全国高校ラグビー大会(花園)に出場。高校日本代表候補に選出される。高校卒業後は同志社大学に進学し、1年次からレギュラーを獲得。人生において初の海外ニュージーランド、クラストチャーチ合宿を経験。4年次には主将を務めながら、日本代表候補、U23 日本代表に選出される。

大学卒業後はワールドラグビー部に入部。2002年には「海外でプレーがしたい」との思いを断ち切れず、ワールドラグビー部を退部。海外各地へ1年間ラグビー留学。ここで本格的なラグビーを通じた世界国際交流を経験する。

帰国後、NECグリーンロケッツに加入。同年にマイクロソフトカップ優勝、翌年から2年連続日本選手権優勝。その活躍が認められ自身初となる日本代表に選出される。日本代表バイスキャプテン、日本A代表キャプテンとして国際舞台を豊富に経験。またその間もスポーツを通じた国際交流に積極的に取り組む。2009年に現役を引退。

現在、豊富な国際経験を生かし、スポーツを通じた社会貢献活動を行っている。また母校・同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程にてスポーツを通じた社会貢献に関する研究にも取り組んでいる。